

発行 宮城県こもれびの森 森林科学館  
〒987-2512 宮城県栗原市花山草木沢角間 10-7

TEL&FAX 0228-56-2330  
http://mifi.main.jp/komorebi.htm



## イベント報告 -ウッドランドクラブ9月-

### ～初秋の自然観察とお茶会～

9月のウッドランドクラブは、初秋を感じる自然観察会とお茶会を実施しました。ススキやキク科の花が咲く小道を散策しながら秋を感じることができ、園内のカツラも黄色に色づき独特の香りも漂っていました。

お茶会では、琴の演奏を聴きながら和菓子をいただき、しばし風流な気分になることができました。

普段の森林科学館のイベントとは一味違う大人の雰囲気を楽しむことができました。



＜お琴の演奏＞

## イベント報告 -ウッドランドクラブ10月-

### ～秋を満喫 きのこ観察ときのご鍋～

10月のウッドランドクラブのテーマは「きのこ」です。「きのこ」を探し、採り、そして味わうという「きのこ」づくしのイベントです。当日は仙台きのこ同好会の方々も加わり、きのこ談議が盛り上がりました。「きのこ」好きの人にとっては、最高の日でした。

また、県自然保護課の職員もイベントに加わり、生物の多様性についてのお話をいただき、参加された方々はあらためて自然を大切にしたい気持ちを持たれたことと思います。



＜秋を収穫しました!!＞

## こもれびの森の かわいいことりたち

こもれびの森サポーターで  
専属ことりカメラマン(?)の  
大友さんのコーナーです

### “冬の準備”

①② “栗の実を蓄えるカケス”  
エサの不足する冬に備えてカケスが栗の実をとったところです。「いが」から見事に取り出しました。

③ “ヒヨドリの幼鳥”です。数羽の幼鳥がそれぞれスピーク、パーク鳴きながらせわしく動き回ります。得た命を精一杯確かめているように感じます。(大友)

＜①カケス＞



＜②カケス＞



＜③ヒヨドリ＞



## ミツケ! こもれびの森 こもれびの森でみつけたよ

山のことなら何でもプロ級、サポーターの(は)さんのコーナー

### “チョット妖艶か?”

民家があった名残で館内の湿生植物園の近くの山際に茗荷が生っている。ここに生えている5個の茗荷が実をつけた。十二単のような姿の淡黄色の花は普通に見られるが、実はこのほかに艶やかで熱帯植物と思わせる真っ赤なポテッとした唇が三つともえしているかのように見えた。その唇に白い米粒大の丸い3～4個の目玉のようなものがくっついている。これは種で、蒔くと茗荷なるという。

湿度と温度のバランスなどの関係から実をつけることは滅多になく人目に触れるのは珍しいといわれる。齢60ン年、小生も初めて見た。(は)



＜①花＞



＜②実になる直前＞



＜③実＞



＜④種＞

## まめちしきコーナー “花や木などのチョットした知識”

### ～「心の錦」・・・「ダンドボロギク」(キク科)～

キクの花が目立つ秋になりました。「ダンドボロギク」は北米原産の外来植物で、どう見ても雑草中の雑草にしか見えない野草です。多くのキク科の花は、舌状花(周りの花びら)と筒状花(中央の花びら)、又は舌状花のみで花が咲きます。しかし、この花は筒状花だけでスキンヘッドのように見えます。小花は目立たないのですが咲いています。そして、花が終わると白い綿毛(冠毛)が目立ち、「ボロ」がまとわりついて見えるようになります。

名は1930年代に、愛知県段戸(だんど)山で発見されたことに由来します。これに花後の白い綿毛がボロのように見えることから名づけられました。

この野草を見つくと、「ボロは着ても心の錦～どんな花よりきれいだぜー♪♪」という、かなり古い時代の演歌をつい思い出してしまう。きっと、「ダンドボロギク」も「ボロ」は着ても心の錦はある野草なのかもしれません・・・。

(ちなみに演歌は水前寺清子の「いっほんどっこの唄」で、昭和40代の大ヒット曲です。)(千葉)



＜ダンドボロギク＞



## 科学館情報

### 科学館の滝

園内の敷地の一番奥に小さな滝があります。おそらく湧水が集まって流れ落ちているものと思われる。年中枯れることはなく、夏も冷たい水が流れています。春になると「ミスバショウ」や「オウレン」の花が咲き、滝を背景に花の写真を撮る方もいます。滝は2本の流れがあり、夫婦滝とかの名があると聞きますが、新しい名前を募集中です。来館した折に見ていただき、名づけていただければ幸いです。

